

新型コロナウイルス禍のなかで大学を考える

3年次生は既に前期成績がつき、1年次生と2年次生も前期の期末テストが始まりました。3年次生で大学・短大に進学を希望する者は、初めての入試制度となった総合型選抜、学校推薦型選抜の試験を皮切りに、大学入学共通テスト、一般選抜という入試シーズンを迎えることとなります。

新型コロナウイルスの感染拡大により大学生の学生生活、就職活動も大きく影響を受けています。入試で面接を取りやめたり、オンライン面接を実施したりする大学・短大、専門学校が少なからずあります。大学のなかでは対面授業を再開せず、この1年間は殆どオンライン授業のみという学校もあります。地方や外国から来た学生が学内で講義がないだけでなく、学内に立ち入ることすらできない学校もあるようです。そのために、東京の下宿を引き払って地元に戻った学生や、帰国したくても帰国できない留学生もいるそうです。さらに、入学式や卒業式もオンラインで、新しい生活になったという実感を持っていない学生も相当いると聞きました。

オンライン授業といっても通信回線の関係で週に1～2日にしか映像の講義がなく、レポートや質問等も週1～2日しか送信することができず、充実した授業になっているのか、疑問符が付くケースも少なからずあります。実技や実験、実習は、基本的には対面できないと学べないことがたくさんあります。先日、本校に卒業生が教育実習に来ましたが、大学ではオンライン授業なのに、教育実習では対面で生徒と触れることができ嬉しかったと言っていた実習生がいました。

8月19日に京都にある立命館大学の立命館大学新聞社が驚愕的な調査結果を発表しました。本校の後期にあたる秋学期以降に「休学・退学を考えているか」というアンケートに対して「休学を考えている」が25.6%、「退学を考えている」が9.8%、両方を合わせると35.4%という3人に1人は休学乃至退学を考えていることとなります。特に、1年生が退学を求める声が多かったようです。退学を考える一つの理由として、オンライン教育の利点を感じられないことが挙げられています。特に1年生は大学に登校できず、ゼミやサークルにも参加できない生活を余儀なくされ、入学式以外、一度もキャンパスに行くことができないことが記されています。これは決して立命館大学だけの問題ではなく、多くの大学の学生が同じような声を挙げています。福岡にある国立大学の九州大学でも6月に実施した調査では、「孤独感や孤立感を感じるか」という問いに、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生が4割にも上ったそうです。後期も多くの大学がオンライン授業を進めていきますが、福岡にある九州産業大学が8月に実施した調査では、遠隔授業に対して「対面授業と同程度の効果がある」と回答した学生は2割ほどにとどまっています。本年度のような遠隔授業なら通信制大学と同様な授業方式であり、私立大学の初年度納入金が年間130万円程度です。参考までに通信制大学は、1年次からの卒業まで最短の

場合で総額 200 万円を超えるのはサイバー大学、日本ウェルネススポーツ大学、ビジネス・ブレークスルー大学、早稲田大学の 4 大学、多くの大学は 60 万円～100 万円程度です。そのため大学生や保護者から大学に対して学費減額や学費返還の声が上がっているのも事実です。

文部科学省は 9 月 15 日付で、各大学及び高等専門学校に対して「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について」という通知を発しました。各大学等における感染対策の徹底と学生の学修機会の確保の両立を促しています。文部科学省は、この通知のなかで面接授業(対面授業)の重要性を説き、面接授業の検討を促しています。この通知以前に、文部科学省は「大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査」を行っていますが、これによると、大学等の後期授業方針による後期授業では、ほぼ全ての大学が対面授業を実施し、うち 8 割が対面と遠隔の併用を予定しています。対面・遠隔の併用割合については、「ほとんど対面」は 20.4%、「7 割対面」が 11.1%なのに対して、「ほとんど遠隔」が 19%、「3 割対面」が 24.6%と、後期も 4 割以上の大学等が遠隔を主として授業を行う予定としています。現に、京都大学、早稲田大学などでは、後期授業からオンライン授業を主としながら対面授業が必要な科目については対面で行うことが記されています。しかしながら、小学校、中学校、高校、専門学校が学校を再開し、対面授業を行っているので、是非、大学でも後期授業で対面授業の機会を増やし、大学生のキャンパスライフを充実させて欲しいと思っています。

大学等が遠隔授業を主として行ってきた関係で、学校推薦型選抜や総合型選抜の入試でも、例年と異なることが起こりました。学校推薦型選抜や総合型選抜の入試で急遽、面接を中止したり、オンライン面接を実施するとした学校が出てきました。特に、オンライン面接の場合、面接会場が自宅又は高校で実施という大学も何校かあります。高校側は、このオンライン面接の実施方法について、大学の募集要項に記載されて初めて知ることになり、大学側から事前に説明や連絡などを受けておらず、「寝耳に水」の感が強く、もう少し実施する大学側の配慮が欲しかったと感じています。

コロナ禍で就職戦線にも異変が起こっています。新型コロナウイルス感染拡大によって、いままでにない就職活動が展開されています。学生が集まる合同会社説明会などは中止、企業の人事課による大学等への訪問の中止などにより、オンラインによる説明会や、面接が実施され、一度も企業訪問しなくても内定を得る学生もいます。緊急事態宣言が出た 3 月から企業も景気動向が読めず、なかなか内定を出せずに苦労したという話を聞きました。

例年だと、就職活動の前半は、企業のイメージや憧れが先行しますが、本年度は企業の業績などや、ウイズコロナ下で働くことを考え選ぶ傾向があります。いままで人気の高かった旅行代理店や航空会社などの旅行関連会社の人気が落ちています。また、次年度に向けた採用計画がない旅行関連会社もあります。「Go To キャンペーン」でどのくらい業績が回復できるか、コロナウイルス禍では先が見通せないようです。逆に人気度がアップした会社には、在宅勤務などコロナ対策や、働き方改革を目に見える形で実施している会社などの人気が高いようです。